概　要　版

県立高等学校教育の在り方

～長期ビジョン～

全体構成

第1章　新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和7年度）の取組（中間まとめ）…… 1 頁
第2章　岩手の高等学校教育の基本的な考え方…… 2 頁
第3章　県立高校学びの在り方…… 3 頁
第4章　学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）…… 6 頁
第5章　高等学校教育の充実に向けた方策…… 8 頁

岩 手 県 教 育 委 員 会

第１章　新たな県立高等学校再編計画（平成28年度～令和７年度）の取組（中間まとめ）

【概要】

（１）策定の趣旨

県立高校教育の現状と課題を踏まえ、魅力ある学校づくりに向けて適切な教育環境の整備の推進を図るため策定したもの。

（２）計画の期間

平成28年度から令和７年度までの10年間の計画である。（前期H28～R2　後期　R3～R7）

（３）基本的な考え方

ア　特色と魅力を持った学校の整備　　イ　教育機会と教育環境の確保
ウ　様々な課題を抱えた生徒に対応した学校の充実　　エ　地域や産業と高校教育の連携

➢**後期計画**

ア　生徒の希望する進路の実現　　イ　地域や地域産業を担う人づくり

（４）現行再編計画による計画値及び実績値の比較[参考１]

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則※ に基づく学級減等により、計画値と実績値に差が生じている。

※　入学志願者の数が、生徒の募集に関する人員に満たない場合で、その不足する数が１学級の収容定員以上であるときは、学級数を減ずることがある。

〔参考１〕再編計画策定時における計画値と実績値の比較

計画値

（前期H28策定、後期R3策定）

再編計画	年度	中学校卒業予定者数	計画値 県立高等学校（全日制課程） 学校数	学級数	学科種別		募集定員
前期（H28～R2）	H28	12,084 人	63 校	255 学級	普通科※	148 学級	10,200 人
					専門学科	77 学級	
					総合学科	30 学級	
	R2	10,775 人	60 校	216 学級	普通科※	126 学級	8,640 人
					専門学科	64 学級	
					総合学科	26 学級	
	R7*	9,806 人	49～51 校	189～191 学級	普通科※	108～110 学級	7,560～7,640 人
					専門学科	57～59 学級	
					総合学科	22～24 学級	
後期（R3～R7）	R3	10,083 人	62 校	224 学級	普通科※	129 学級	8,960 人
					専門学科	69 学級	
					総合学科	26 学級	
	R7	9,824 人	59 校	217 学級	普通科※	124 学級	8,680 人
					専門学科	67 学級	
					総合学科	26 学級	

実績値

再編計画	年度	中学校卒業者数	実績値 県立高等学校（全日制課程） 学校数	学級数	学科種別		募集定員
前期（H28～R2）	H28	12,081 人	63 校	255 学級	普通科※	148 学級	10,200 人
					専門学科	77 学級	
					総合学科	30 学級	
	R2	10,679 人	62 校	224 学級	普通科※	129 学級	8,960 人
					専門学科	69 学級	
					総合学科	26 学級	
後期（R3～R7）	R3	10,092 人	62 校	224 学級	普通科※	129 学級	8,960 人
					専門学科	69 学級	
					総合学科	26 学級	
	R7	9,729 人	59 校	213 学級	普通科※	122 学級	8,520 人
					専門学科	68 学級	
					総合学科	23 学級	

＊前期におけるR7の数値は、新たな県立高等学校再編計画策定時（H28）に10年後の数値を見込んだもの。※普通科には、理数科及び体育科含む。

【高等学校教育の基本的な考え方　～５本柱～】

子どもたちに、広大な県土を有する本県の地理的要因によって教育の機会を損なうことなく、様々な社会的変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓く力を身に付けさせ、「持続可能な社会の創り手、地域や地域産業を担う人材」として育成していくことが、これからの岩手の未来を切り拓く礎になると考える。

①　持続可能な社会の創り手となる人材の育成

・　変化の激しい社会の中で豊かな人生を切り拓くために必要な資質・能力を備え、多様な人々と協働しながら、これからの社会を維持・発展させていく持続可能な社会の創り手となる人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む。

②　高等学校の多様化に対応、各自の希望する進路の実現

・　様々な背景を持つ生徒や、教育上特別な支援を必要とする生徒が在籍する等、高等学校の実態が多様化する中、よりインクルーシブな教育環境の構築や、生徒一人一人の特性に応じた多様な可能性や能力を最大限に伸ばし、各自の希望する進路の実現を可能とする生徒を主語とした教育環境の構築に取り組む。

③　教育の質の保証、教育の機会の保障

・　今後も見込まれている生徒数減少[参考１][参考２]により、更なる学校の小規模化が懸念される中、教育の質の保証に向け、ＩＣＴの利活用も含めた教育環境の構築に取り組む。また、広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会の保障に向けた学校の配置に取り組む。

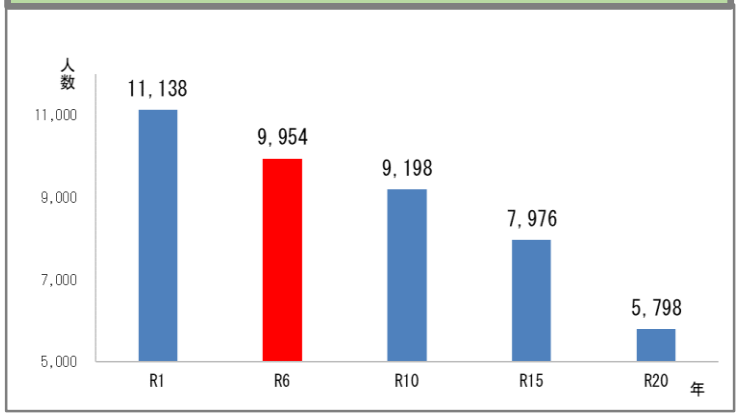
④　地域や地域産業を担う人材の育成

・　地域社会や地元企業等と連携・協働し、高等学校の特色化・魅力化を進めながら、地域への理解を深め、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築に取り組む。

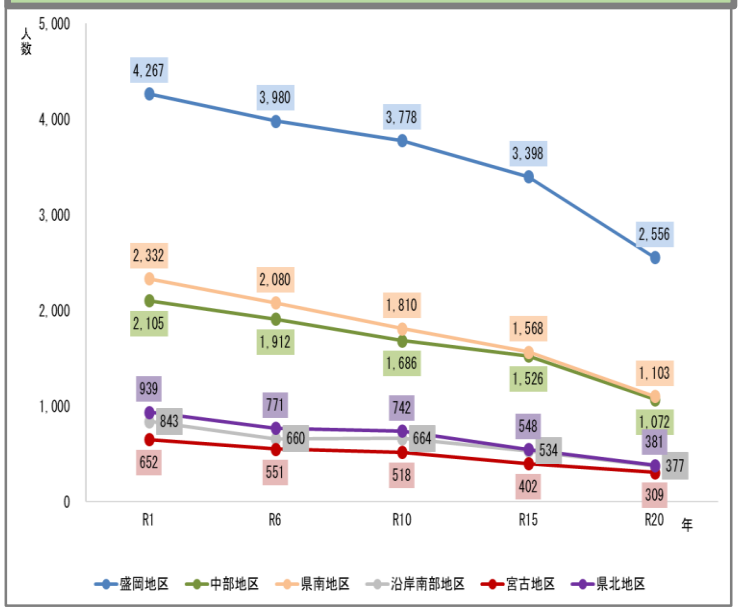
⑤　大学進学率の向上や専門的知識を持つ人材の育成

・　大学進学率の向上や、県政課題等に対応した専門的知識を持つ人材の育成に向けた学力向上やキャリア形成支援に資する教育環境の構築に取り組む。

〔参考１〕岩手県における中学校卒業予定者数の推移



〔参考２〕各地区における中学校卒業予定者数の推移



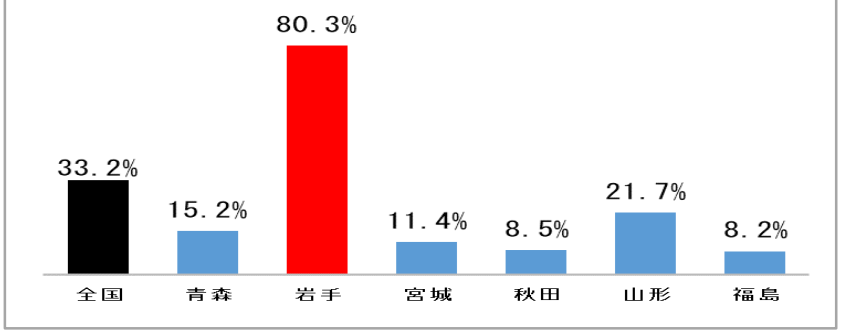
各年３月末、平成31年度及び令和６年は実数値、令和10年以降は推計値

第３章　県立高校の学びの在り方

【高校の特色化・魅力化のビジョン】

- 生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の可能性や能力を最大限に伸長するため、高校の特色化・魅力化を推進し、各高校によるスクール・ポリシーを踏まえた教育活動を支援する。
- 本県でこれまで培われてきた各県立高校と地域・企業・大学等との連携・協働を深化させるとともに、取組の持続可能性を高める環境づくりに取り組む。
- 高校の特色化・魅力化に当たり、地域人材等の有効な資源との連携・協働[参考]の推進に向けたコーディネーター等の専門人材の配置については、現在、国において検討が進められていることから、今後の国の動向や他県の状況等を踏まえたうえで検討し、取り組む。

〔参考〕公立高校におけるコミュニティ・スクールの導入率（R5）



いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031
（県立高校に関するスクール・ミッション）R3.10策定・公表

各県立高校

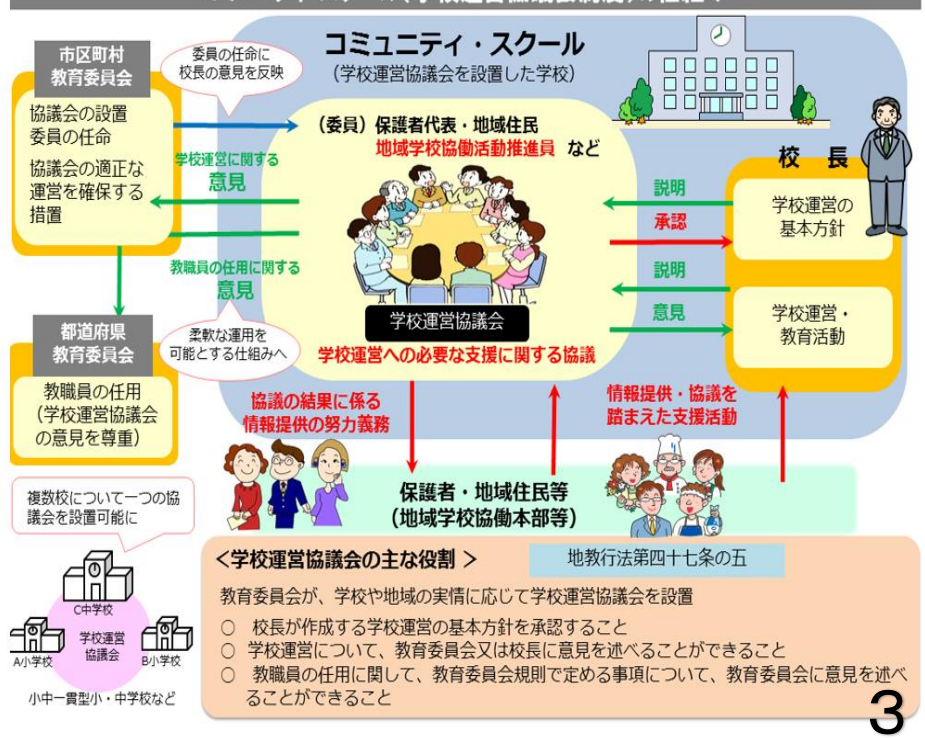
高校魅力化グランドデザインに基づき、各スクール・ポリシーを策定・公表

ｸﾞﾗﾃﾞｭｴｰｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ	ｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾎﾟﾘｼｰ	ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ
このような力を伸ばします	このような学びを行います	このような生徒を待っています

各県立高校のｽｸｰﾙ・ﾎﾟﾘｼｰを支える協働体制（コンソーシアム）の機能

コンソーシアムの代表例

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み



第３章　県立高校の学びの在り方

普通高校(普通科、理数科又は体育科)の【ビジョン】

- 普通高校に学ぶ生徒の進路は、大学、専修学校等への進学や就職等、多岐にわたっており、生徒・保護者のニーズや社会の変化に対応した学びの保障や、生徒の資質・能力の向上を図るため、教育課程の見直しや、教育活動の特色化・魅力化等の取組を更に進める。
- 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実していく必要があることから、探究的な学び、文理横断的な学びの充実を図りながら、ＤＸハイスクールの取組を進め、新たな学科やコース等の設置について検討し、取り組む。
- 理数科等、普通科系の専門学科については、県全体のニーズや卒業後の進路状況を見据え、学科や学系の構成、その内容について検討し、取り組む。
- 小規模の普通高校においては、将来的な生徒数減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点を踏まえつつ、より良い教育環境の整備を図るため、他の高校との再編等を検討し、進める。

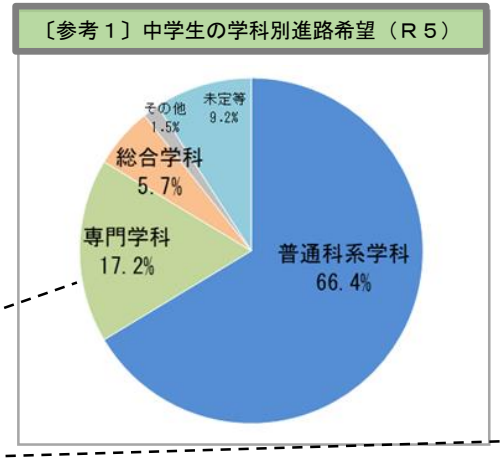
専門高校（農業、工業、商業、水産、家庭など、職業教育を主とする学科を置く県立高校）の【ビジョン】

- 専門高校については、産業振興の方向性や、地域が必要とする産業の人材育成を見据えた学科編制や学びの在り方について、国の動向も注視しながら検討し、取り組む。
- 地域産業を担う人材の育成や課題の解決に向け、必要に応じて知事部局等と連携しながら、地域や産業界と学校との連携・協働の推進に取り組む。
- 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のため、探究的な学び、実践的な学びの充実を図りながら、ＤＸハイスクールの取組を進める。
- 各専門分野の中心的役割を担う専門高校については、学校規模を維持することにより、職業教育のセンター・スクールとしての機能を維持する。
- 小規模の専門高校においては、各分野の専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、総合的な専門高校への再編や他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

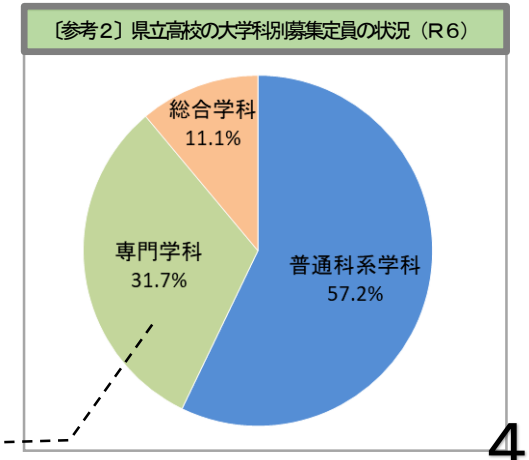
総合学科高校の【ビジョン】

- 地域の産業構造やニーズを踏まえた系列構成や学びの内容となるよう、国の動向も注視しながら、系列の見直しや学びの在り方等について検討し、取り組む。
- 小規模な総合学科高校においては、より良い教育環境の整備を図るため、総合学科高校に改編した成り立ちを踏まえつつ、より広域での再編も視野に入れながら、総合的な専門高校への再編や他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

〔参考１〕中学生の学科別進路希望（Ｒ５）



〔参考2〕県立高校の大学科別募集定員の状況（R6）



工業 7.7%、商業5.0%、農業2.2%、家庭1.9%、水産0.4%

工業14.7%、商業8.3%、農業6.0%、家庭1.8%、水産0.9%

農業に関する学科の【ビジョン】

・ 地域の農業形態や産業構造及び地域のニーズ等を考慮しながら、農産品を活用した商品開発等、６次産業化へ対応した教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
・ 小規模な農業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

工業に関する学科の【ビジョン】

・ 地域の産業構造やニーズを踏まえながら、工業に関する専門教育の充実と卒業後の進路を見据えるとともに、関連する幅広い分野について学習できるよう他の職業学科との連携を図りながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
・ 小規模な工業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

商業に関する学科の【ビジョン】

・ 他の学科においても、６次産業化へ対応した商業に関する学びが求められていることから、学校や学科を超えた連携を図るとともに、地域の産業構造やニーズを踏まえながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
・ 小規模な商業高校（科）においては、専門性を維持しながらより良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

水産に関する学科の【ビジョン】

・ 水産業の動向やニーズを踏まえながら、地域や生徒の実態に合わせた教育課程の見直しや、学校や学科を超えた連携、地域等との連携・協働等、入学者確保に向けた方策を検討し、取り組む。
・ 将来的にも水産の学びを確保できるよう、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等、教育環境の整備の在り方について検討し、進める。

家庭に関する学科の【ビジョン】

・ 地域の産業構造やニーズを踏まえ、卒業後の進路を見据えるとともに、関連する幅広い分野について学習できるよう他の職業学科との連携を図りながら、教育課程の見直しや学科改編等を検討し、取り組む。
・ 専門性を維持しながら学校の活力を向上させ、より良い教育環境の整備を図るため、学びの配置バランスを考慮するとともに、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

総合的な専門高校の【ビジョン】

・ 地域の産業構造やニーズを踏まえた学科構成としながら、より良い教育環境の整備を図るため、より広域での再編も視野に入れながら、他の学科との併置校への再編等を検討し、進める。

定時制・通信制高校の【ビジョン】

・ 定時制・通信制高校への入学者数の推移や国の動向等を注視するとともに、不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒の増加等に伴う定時制・通信制高校に求められる役割の変化や、全日制高校の再編整備の動きも考慮しながら、定時制・通信制高校の機能強化等に取り組む。
・ 通信制高校の設置について、生徒のニーズの変化等を踏まえ、既存の定時制高校に併設する等、検討する。

第４章　学びの環境整備

１　学校規模に係る【ビジョン】

・　高校時代は社会に羽ばたこうとする段階の人間形成期にあって、生徒同士の切磋琢磨による学力の向上、社会性や協調性の育成や生徒の希望する多様な学びの提供を図るには、学校規模[参考１][参考２][参考３]を確保することが重要である。
・　一方で、本県の広大な県土という地理的な条件、地域の実情、適切な教育の質の確保、県立高校が担う役割の多様化及び少子化の状況等を勘案すると、本県における学校の最低規模は１学年２学級（総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、１学年３学級）とする。
・　地域における学びの機会を保障するため、例えば、近隣に他の高校がなく、他地域への通学が困難な場合における最低規模を１学年１学級とする学校の配置を検討する。
・　これらを総合的に勘案し、学校規模の大小に関わらず、各校が特色・魅力ある教育活動を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことのできる環境を構築することが重要である。

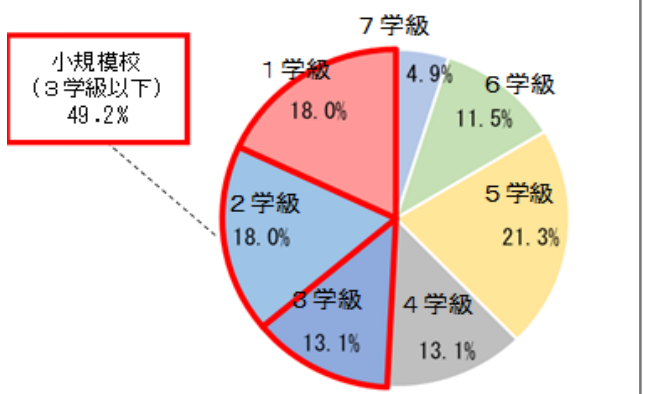
２　小規模校の在り方に係る【ビジョン】

・　（再掲）　本県の広大な県土という地理的な条件や、地域の実情、適切な教育の質の確保や県立高校が担う役割の多様化、少子化の状況等を勘案すると、本県における学校の最低規模は１学年２学級（総合学科高校においては、学科の特長を生かした教育活動の充実を図るため、原則、１学年３学級）とする。

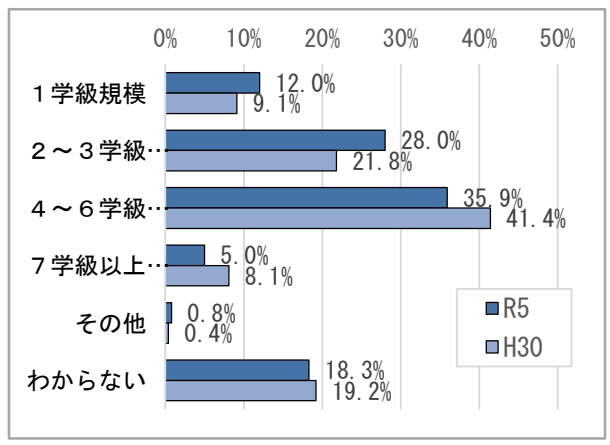
・　小規模校における教育の充実に当たり、人口減少社会を見据え、遠隔教育や学校間連携、地元市町村や特別支援学校との連携・協働、及び遠隔教育を併用した校舎制等の導入等について検討し、取り組む。

・　将来的な生徒数減少の状況や、教育の機会の保障と質の保証の観点を踏まえた小規模校における教育条件の改善について、国の動向を注視しながら検討し、取り組む。

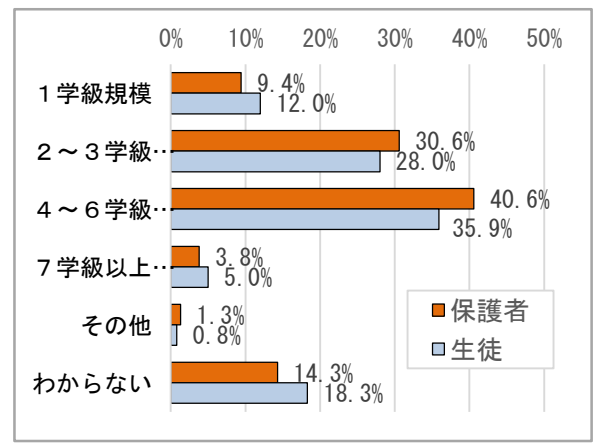
〔参考１〕全日制県立高校における学校規模別の設置状況（R６）



〔参考２〕中学生の進路希望等に関するアンケート①（R５）



〔参考３〕中学生の進路希望等に関するアンケート②（R５）



３　地区割と学校配置の【ビジョン】

・ 交通網の発達や生徒の通学の利便性、産業振興の動向、義務教育との接続等を考慮し、県立高校の配置に関する地区割の基本単位を地区とし、新たに６地区（盛岡、中部、県南、沿岸南部、宮古、県北）［参考１］とする。
・ 専門学科及び総合学科については、将来的な生徒数減少の状況に対応しながら専門分野の学びの多様性を確保するため、全県における学校配置バランスを考慮しつつ、広域での再編を検討し、進める。
・ 県立高校の学校統合においては、教育の質を確保しながら地域に学びの場を残す方策として、遠隔教育を併用した校舎制等、新たな方策を検討し、取り組む。
・ 施設の有効活用等の観点から、特別支援学校や中学校との連携等、校種に捉われない配置の在り方を検討し、進める。

４　通学区域の【ビジョン】

・ 通学区域［参考２］が設定されている趣旨や、入学者選抜における学区制限の状況、特定の地域への志願者の集中を招く懸念等を考慮し、学区の在り方については、次期高校再編計画における高校の配置を踏まえたうえで検討する。

５　通学等に対する支援の【ビジョン】

・ 将来的な生徒数の減少や、広大な県土を有する本県の通学事情等を考慮し、学校統合を行う場合で、かつ、通学が困難となる場合には、地元市町村と連携した通学支援等の在り方について検討する。

〔参考１〕地区割の変更

【変更前】９ブロック

【変更後】６地区

〔参考２〕通学区域（学区）

８学区

※　学区の制限は、普通高校の他、総合選択制高校の不来方の人文・理数学系及び花巻南の人文・自然科学学系に出願する者が該当する。

第５章　高等学校教育の充実に向けた方策

１　遠隔教育・学校間連携に係る【ビジョン】

・　中山間地等に所在する小規模校の生徒が履修できる教科・科目等の種類の増加、生徒の興味関心や進路希望に基づく多様な学習ニーズに対応するため、実施要件の弾力化等、国の動向を注視するとともに、遠隔教育や学校間連携のメリット、デメリットを踏まえながら、遠隔教育の普及・拡大に取り組むとともに、学校間連携の拡大について検討し、取り組む。
・　生徒が病気や怪我、感染症の流行等により一定期間登校できない状況下において、遠隔教育と対面教育をバランス良く組み合わせた教育の在り方について検討し、取り組む。

２　教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応に係る【ビジョン】

・　多くの高校に教育上特別な支援を必要とする生徒等が在籍していることから、高校と特別支援学校との連携を深める等、これらの生徒への対応や、よりインクルーシブな教育環境の在り方について検討し、取り組む。
・　不登校の状況にある生徒に配慮した教育環境の整備については、国の動向や他県の取組事例等を踏まえ、遠隔教育等による支援に取り組む。
・　岩手県外国人児童生徒等教育方針（令和６年３月策定）に基づき、外国人生徒等に対する日本語教育を含めた学校教育全般にわたる支援を検討し、取り組む。

３　普通科改革に係る【ビジョン】

・　大槌高校の取組をモデルとして今後の推移を検証し、他校への展開を検討し、取り組む。
・　普通科改革において、特色・魅力ある文理融合的な学びを行う学科として文部科学省が例示している「学際領域に関する学科」等の設置を検討し、取り組む。

４　普通科改革によらない新たな学科等の設置に係る【ビジョン】

・　グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する拠点校の整備や、探究的、教科等横断的な学びに資する学科等の在り方について検討し、取り組む。

５　全日制高校への単位制導入に係る【ビジョン】

・　大学等への進学指導に重点を置いた全日制普通高校において、生徒の多様な進路希望や学習ニーズを踏まえ、大学卒業後のキャリア形成を見据えた指導体制の一層の充実に向け、単位制の導入について検討し、取り組む。

６　県政課題に対応した人材育成の取組に係る【ビジョン】

・　県政課題等に対応した人材の育成に向け、医系や科学系分野等の専門職を目指すコースや、探究的な学び、文理横断的な学びに取り組むコースなど、学力向上に資するとともに特色あるコースの設置について検討し、取り組む。

第５章　高等学校教育の充実に向けた方策

7　中高一貫校教育に係る【ビジョン】

・ 連携型中高一貫教育については、連携中学校から連携高校への進学状況や今後の中学校卒業予定者数の推移等を考慮のうえ、今後の在り方について検討し、取り組む。
・ 併設型中高一貫教育については、これまでの成果や課題を踏まえ、県立中学校設置による周辺地域も含めた義務教育に与える影響や、中学校卒業予定者数に基づく見通し等を考慮のうえ、今後の在り方について検討し、取り組む。
・ 本県にとって、より良い併設型中高一貫教育校における教育課程や学級編制の在り方について検討し、取り組む。

8　いわて留学に係る【ビジョン】

・ いわて留学（県外募集）[参考]の実施校及び実施を検討している学校に対する支援の方策について検討し、取り組む。
・ 県外生に対して、生活全般において適応が可能となるような支援の在り方について検討し、取り組む。

〔参考〕「いわて留学」（県外募集）による入学者の推移

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2※2	R3※2	R4※2	R5※2	R6※2	計
実施高校数※1	3	3	3	3	4	9	11	14	14	13	－
実施市町村数※1	3	3	3	3	4	8	10	13	13	12	－
入学者数	**5**	**5**	**4**	**4**	**9**	**19**	**19**	**31**	**25**	**32**	**153**

※1　実施高校数及び実施市町村数は、「いわて留学」（県外募集）制度創設前に「全国的にも特色のある教育課程の設置校」として全国募集を実施している２校（水沢農業高校農業科学科、種市高校海洋開発科）を含むものであり、それら２校についても現在は「いわて留学」としている。
※2　R2年度以降の実施高校数と実施市町村数の差については、実施高校が遠野、遠野緑峰の２校に対して、実施市町村が遠野市の１市によるもの。

おわりに

県教育委員会においては、県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～の策定に向けて、現行計画の終期が令和７年度であることから、今後10年・15年先を見据え、本県の高等学校教育が如何にあるべきか検討するため、令和５年６月に外部有識者等を構成員とする「県立高等学校教育の在り方検討会議」を設置し、様々な視点による議論を深めながら、検討を重ねてきました。

この検討を踏まえ、当該長期ビジョンを土台として、全ての生徒が変化の激しい社会に主体的に対応する資質・能力を備えることとともに、持続可能な社会の構築につなげること等を目指して、今後の県立高等学校における教育環境の構築等に取り組みます。

今後の県立高等学校における教育環境を構築の実現に当たり、一定期間を見通した実施計画を定める必要があります。

このため、県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～から概ね10年後を見据えた「第３期県立高等学校再編計画（仮称）」を策定します。策定に当たっては、令和７年度において地区毎に地域住民との意見交換を重ね、十分に意見を伺いながら検討を進めます。

なお、再編計画では、前期５年間における具体的な計画を示すとともに、後期５年間の方向性を示すこととし、後期の具体的な内容は、今後の状況を見極めながら検討することとします。